

毎日同じ服を着て、着替えない…

⇒入浴中などに、似た服と取り替えてみましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

ある程度、認知症の症状が進んでくると、下着や上着などの着替える順番がわからなくなったり（記憶障害）、清潔・不潔の感覚や着替えが必要かを判断する力が弱ってくるために、同じ服を着続ける人がいます。

「同じ服を着たままだと汚れてしまいますよ」「下着を着替えないと病気になりますよ」などと言っても、“汚れ”“病気”という嫌な言葉だけが残ってしまいます。すると、“この人は自分のことを、不潔だとか病人だと言って馬鹿にしている”と思い、怒り出すことがあります。



【 対応方法 】

- ①服が多少汚れていても、まわりに迷惑がかからない限り、**問題ないと割り切り**ましょう。
- ②入浴ができるようであれば、本人の**入浴中**に、脱いだ服や下着を目につかない場所に置き、洗いたての服に替えておきましょう。できれば、着ている服と**似ている色、形、素材の服**がいいでしょう。
- ③入浴後、本人が**気に入っていた場所へ**一緒に行こうと誘ってみてください。
- ④「明日は往診の日ですよ」「明日はデイサービスの日ですよ」と声をかけてみましょう。往診や診察の日、デイサービスに行く日など、**家族以外の人と会うときは**、身ぎれいにしたいと思う気持ちが出る場合があります。
- ⑤着替えがどこにあるか見つけやすいように、タンスの引き出しに“シャツ”“パンツ”などの**ラベルを貼って**おきましょう。

施設などで、他人に裸を見せたり、洗ってもらうことに拒否が強いことがあります。「気持ちよくなりますよ」「さっぱりしますよ」など、**本人がその気になるような声かけ**が望まれます。入浴後に、ご褒美（たとえばノンアルコールビール）を用意したり、粉末の入浴剤を使い「温泉に入ろう」とお声かけしましょう。

